



野木小だより

平成29年8月4日
— 第5号 —
野木町立野木小学校長
生沼 房子

夏休みも元気！野木小っ子たち

夏休みになって2週間。約3分の1が過ぎました。保護者の皆様には、面談やプールの監視等で大変お世話になりました。

面談では、1学期のお子さんの様子を元に、担任と保護者の方が話し合う機会を設けることができ、2学期へつなげる貴重な情報交換ができました。



プール開放は全7回の予定中、雷注意報の出ていた1回を除き、6回実施できました。

ご家庭の事情や体調などの都合で来られないお子さんもいましたが、平均すると1回あたり72人（全校児童の約6割）が参加し、最も多い日は84人（約7割）もの参加がありました。

本校には低学年用の浅い小プールがあって安心して水遊びを楽しめること、築10年を経過しても設備がきれいで気持ちよく入れること、保護者の方も積極的に送り出してくださることなどが、参加率の高い要因と思われます。1年生から6年生までが仲良く水に親しむ姿が見られました。

往復には、学期中と同様に保護者・地域の方に見守りをさせていただきましたこと、深く感謝いたします。

合奏・合唱も頑張ります！5・6年生

5・6年生は10月に行われる町小中合同音楽会と野木小っ子祭りに向けて合奏と合唱の練習をしました。プール開放の前の1時間をあてて、



一生懸命取り組み、日に日に上達してきました。

どうぞ、ステージでの発表をお楽しみに！

第1回学校評価を実施しました！

「夢や希望を持てる教育活動を通して、子どもたちや保護者、地域の皆様、教職員の幸せな時間づくりを応援します」

これは、昨年度より掲げている本校のビジョンです。これから30年後、最も大切な価値は「時間」であるとの考えによるものです。30年後、現在の子どもたちが保護者になったとき、本校で学んだことや思い出を自分の子に笑顔で語っている姿を思い描いています。

■学校教育目標（目指す子どもの姿）

- つよく 健康でねばり強い子
- あかるく 心豊かな子
- いきいきと 進んで学習する子

■目指す学校の姿

- 子どもが育ち、教職員が協働し、保護者・地域と連携する学校

本校では、学校教育目標を達成するために、**4つの努力点**で**16の重点項目**を設け、**数値指標**を掲げて教育活動に取り組んでいます。項目と数値指標は、昨年度の学校評価（児童の自己評価のうちよくあてはまる、だいたいあてはまるの割合）を基準に教職員で話し合って設定しています。

また、すべての教育活動は、「子どものためになっているか」を判断基準とし、絶えず工夫や改善に努めていこうと考えています。そのために、3年前から学校評価を年2回の実施にし、指導方法の改善に生かしています。

今年度の第1回目は、7月に児童と教職員による自己評価を行い、裏面のような評価結果が得られました。

（矢印は、昨年度との比較です。）

1 行動しよう (心身ともにたくましい子どもの育成)

【項目】	(数値指標)	【自己評価】
外遊び・運動 (90%)	99%	↑
好き嫌いなく食事 (90%)	91%	↓
生活習慣 (90%)	96%	↓
安全な生活 (100%)	99%	→



食に関する授業

おおむねよい状態です。
好き嫌いについて、給食時に嫌いなものを無理に食べさせるという指導はしません。新橋小学校の岩崎栄養教諭を講師に招き、食に関する授業を全学年で実施しています。食事と健康について考えることで、自らよりよい選択ができる力を身に付けさせたいと思います。

2 見つけよう (思いやりのある心豊かな集団づくり)

【項目】	(数値指標)	【自己評価】
自分のよさ (85%)	92%	↑
学校が楽しい (90%)	92%	→
あいさつ・言葉遣い (90%)	94%	↓
互いを思いやる (90%)	97%	↑

自分のよさに気づき、自分を肯定的にとらえられる子なら、他人を思いやることができ、思いやりにあふれる学校なら、毎日が楽しくなる・・・そんな好循環が見られる結果だと言えます。「自分のよさを見つけようカード」を継続実施している効果も大きいと思われます。また、高学年児童に



6年生が1年生教室でお手伝い

優しくしてもらった経験から、自分も年少者を思いやる、というよい伝統も受け継がれています。

あいさつについては、指標を超えているものの、自己評価はやや下がりました。あいさつを交わす心地よさを感じて、進んで声を出せるようになってほしいものです。

3 深めよう (分かる授業を通した確かな学力の保障)

【項目】	(数値指標)	【自己評価】
1行日記 (70%)	98%	↑
授業が分かる (80%)	96%	↓
読書が好き (80%)	89%	→
家庭学習 (80%)	97%	↑

すべての項目で指標を超え、おおむねよい状態です。

特に読書についてはこの3年間の比較で大きくよい方向へと伸びました。月1回の家読の日を設定し、「家読カード」にご協力いた



家読カードの掲示

だしている成果が表れたものと思います。

学校においては児童主体の「分かる授業」をさらに推進し、家庭においては保護者の皆様の協力を得ながら家庭学習習慣の定着を図っていききたいと思います。

4 つながろう (開かれた学校づくり)

【項目】	(数値指標)	【自己評価】
学校の出来事を話す (95%)	83%	↓
各種たより、連絡帳 (90%)	94%	→
学校支援ボランティアとの協同による教育活動 (95%)	90%	↓
町スタガードの意識 (80%)	97%	新

「学校の出来事を話す」は、指標を下回っています。一行日記を糸口にするなど、お子さんの話を聞く時間を作っただければと思います。相手に分かるように話をすることは、実に大切な力になります。

今回新たに取り入れたのは、小中連携のために共通で設けた生活・学習の約束(野木町スタンダード)を意識しているか、というものです。何項目かあるうちの「時と場に応じた言葉遣いを心がける」について、本校の子どもたちは意識が高いことが分かりました。



れんが窯について教わる

